

本稿が100号を迎えました。足掛け8年の道のりでしたが、継続することの意味を改めて痛感しています。

2月21日(土)、本校のビッグイベントの一つである「第5回協創コンテスト」が行われました。出場したのは、個人が12、団体が13でしたが、年々盛り上がりを見せています。最優秀賞には、個人の部:森澤虹心さん(高1・英語スピーチ)、団体の部:新体操部(高1森澤さん、高2上野さん)が選ばれました。また、アニメのプレゼンテーションを1回目(中学2年生)からこれまで5年続けて行った高校3年の小田蓮佳さんに、「レジェンド賞」を贈りました。

さて、学校の河津桜が開花した2月28日(土)、高校卒業式が挙行されました。以下は校長式辞の全文です。

(右の写真は、「レジェンド賞」を受賞した小田蓮佳さん)



## 「初心忘るべからず」

暖かな日差しを浴び、エントランス近くの河津桜が開花しました。いよいよ春の訪れです。

卒業生のみなさん、卒業、おめでとうございます。

保護者のみなさま、ご子女のご卒業、誠にありがとうございます。また、これまで、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。そして、ご多用の中をご臨席いただきましたご来賓のみなさまに、心から御礼申し上げます。

さて、こうして卒業生ならびに保護者のみなさまにお話しをする機会は、これが最後となりました。まずもって、みなさまに感謝の気持ちをお伝えします。

卒業生のみなさん、保護者のみなさま、中高6か年、高校3か年と、数ある学校の中から本校を選んでいただき誠にありがとうございました。そして、本校教職員との出会いをいただき、誠にありがとうございました。

2019年、本校が新進気鋭の学校として船出をしてから7年、みなさんのお陰で、広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校の体を形成することができました。本当にありがとうございました。感謝の意に堪えません。

ところで、卒業生のみなさんはこの3年間で、得難い、多くの貴重なチャレンジ経験を積み重ねました。その様子を目の当たりにし、報告をいただくたびにどれだけ心動かされたでしょうか。

感覚過敏という特性があることを知り、多様性や包摂性といった意味について考える機会を得ることができました。防災士として地域で地道に活動する姿に称賛のお手紙を頂きました。新設クラブの公式戦初勝利、朗報を聞いて心躍りました。被爆80年の節目、「チンチン電車と女学生」の圧倒的な演技に心震えました。3年連続全国大会金

賞受賞の快挙、たゆまぬ努力と輝く笑顔がその原動力に違いありません。5年目を迎えた協創コンテストにあって、5年連続出場というレジェンドは継続することの意味を教えてくださいました。そして、画期的なさまざまな食品開発と長崎や八丈島などとの学校間連携を通じた探究活動は、まさに協創の名刺代わりとなるまでになりました。

こうした経験を通じて得たこと、学んだことは、計り知れないものがあつたはずで。例えば、諦めない粘り強さ、例えば、仲間を信ずることの尊さ、例えば、新たな価値を見出そうとする勇氣。どれもこれも、これからの人生に必要なことばかりです。

さらには、「初心忘るべからず」ということをみなさんは自ずと体現してきたのです。「初」という漢字は、衣編に刀と書き、着物をつくる布地にはさみを入れることを表します。「初心」は、自分の心にはさみを入れること、過去の自分をどんどん切り捨てて、変化をしていきなさいという室町時代、世阿弥が残した言葉でした。「初心忘るべからず」は、諦めず、失敗を恐れずにチャレンジしなさい、アップデートしていきなさいという言葉なのです。

この言葉は、「グローバル・イノベーション・リーダー」(地球的視野で考え、地域社会と協創する人)に相応しい「協創マインド」と言えるのではないのでしょうか。

高校生活で得たあまたの経験値を礎にして、未来に向けて羽ばたいていくみなさんが、「協創マインド」を更に磨き、自分と仲間を信じて歩みださんことを心から願っています。

結びにあたり、卒業生のみなさん、並びにご参列いただいたみなさまのご健勝を祈念して、式辞といたします。